

学部・院生のための研究キャリア発見マガジン

2017. 秋号
vol.38
[インキュビー]

incu・be

特集

研究キャリアを拓く!
学 会
活用法



incu•be vol.38 contents

P04 特集 **研究キャリアを拓く！学会活用法**

- 04 若手研究者124人に聞きました。あなたの学会の使い方は？
- 06 アピールタイムは発表時間の外にある！
(大阪府立大学 佐々木 貴広さん)
- 08 異分野の研究者との対話が、自分を夢に近づけてくれた
(徳島大学大学院 栄養生命科学教育部 富田 知里さん)
- 09 第7回 超異分野学会 本大会 開催
大会テーマ：ヒトとは何か、そしてヒトをとりまく研究へ。

新・「博士号」の使い方

- 03 「博士号」を活かしたければ「専門分野」と「専門性」を区別しよう(2)
(ヤンマー株式会社 中央研究所 小西 洋充さん)

リバネス研究費で「あなたの」研究を始めよう

- 10 採択が出発点。「何か」が始まる研究費。
(京都大学 霊長類研究所 今村 公紀さん)
- 11 第38回リバネス研究費 募集要項発表!!

研究に効く〇〇

- 12 まだまだ使えるホワイトボード
～研究のムチャを防いで、持続可能な研究生活～

探しに行こう 自分の場所

- 14 本物の教育を追求する、真面目で不器用な研究者
(株式会社パラリア 浅見 貴則さん)
- 16 会社での研究経験が、僕を「研究好き」に変えてくれた
(京都府立医科大学 大学院医学研究科 谷田 任司さん)
- 18 変化を厭わない姿勢が研究をつなげていく
(城西大学 薬学部 薬科学科 片倉 賢紀さん)

探索中 わたしが活躍できる場所

- 20 ビビッと来たら即行動。結果は後からついてくる
(京都大学大学院 生命科学研究科 M1 中尾 知美さん)

未来を掴む

- 22 キャリアディスカバリーフォーラム開催報告
- 24 株式会社リバネスのインターンシップ
- 25 サイエンスブリッジリーダー育成講座 2017年後期講座
リバネスキャリアイベント「Visionary Cafe」東京&大阪で開催

実になるインターンシップ経験って何？

- 26 自分だけでなく相手がいる、だからゴールの正しさを考え続ける
(製薬企業研究員 山田 光男さん)

紹介します！研究キャリア応援講座 27

研究キャリアの相談所 募集中の求人情報 28

「博士号」を活かしたければ 「専門分野」と「専門性」を区別しよう(2)

マリンファームに3年半勤めたあと、本社に異動し施設園芸の事業に携わるようになりました。それまで取り組んでいた養殖技術よりは自分の専門に近づいたわけですが、そのものズバリでないのは変わりません。それでも、上司や同僚から受ける質問について、その答えをある程度は想像できるし、答えを知っていそうな人を知っている。そういうのは非常に重宝がられました。

ひとつのテーマに対して自分のオリジナリティを出そうとする、博士論文を書くまでの過程は結構しんどい。すごく狭い範囲なんだけど、すごく強烈に集中して何かを解き明かそうとしたわけです。そのときに知り合った人は今も頼れます。それに、自分が何か質問されても「わかりません」「知りません」で終わらないのは、こういう考え方をしていけば、こういう答えにたどり着けそうだ、という論文を書く過程で身につけた方法論をもっているから。明らかにすべきことをいったん抽象化して、また別の具体的なものを想像する、という考え方も、たくさんの実験データから言えることを導き出さなければならなかった博士論文を通じて身につけたものです。

いま役立っているのは、博士号という称号ではなくて、それを取るプロセスの中で培ってきた人脈や考え方です。博士課程の経験がなく社会人になったとして、同じものを身につけられたかと思うと……怪しいですね。社会人は、もっと「うまくやる」ことを全面に求められるから、それこそ「自分で全部やる」なんて不器用さのない、適当にこなすヤツになっていたんだろうなあと思います。

(取材と文・磯貝 里子)



こにし あつみ
小西 洋充 博士(農学)

ヤンマー株式会社 中央研究所
バイオイノベーションセンター 倉敷ラボ 所長

2008年、東京大学大学院農学生命科学研究科(生物・環境工学専攻)で学位を取得後、ヤンマー株式会社に入社。マリンファームでの勤務を経て、2011年7月からは本社にて施設園芸、土づくりの事業に携わる。2015年、バイオイノベーションセンターの所長に就任。

研究キャリアを拓く！

学会は、自身の研究を発信し、他の研究者からも最先端の研究について聴くことができる、研究者にとって非常に有意義な場所。世界各国、日本全国から多様な研究者が集まるこの貴重な機会は、研究者としての将来を変える出会いが生まれる場にもなりうるのではないのでしょうか。あなたの気持ちひとつで、学会は研究キャリアの開拓地になるかもしれません。

若手研究者 124 人に聞きました。 あなたの学会の使い方は？

多くの研究者にとって、学会に参加する主な目的は「研究発表をする・聴く」ことでしょうか。他にも、著名な先生の講演を聞いたり、友人との再会を心待ちにしたり、企業の展示ブースで新製品の情報を入手したり……学会にはたくさんの楽しみがありますよね。研究キャリアを歩み始めた若手研究者は、どんな目的で学会に参加しているのでしょうか。

【アンケートへのご協力ありがとうございました】

今回のアンケートは、リバネスが配信するメールマガジン「リサーチア」やSNS等によって周知を行い、ウェブフォームを通じて回答いただきました。ご協力くださった124名の若手研究者のみなさま、ありがとうございました！

対象：大学生・大学院生・ポスドク等の若手研究者

実施期間：2017年7月9日～7月28日

平均2.5回／年、学会には定期的に参加する

みなさんの「学会デビュー」はいつ頃でしたか？アンケートでは、回答者の9割以上が「修士1年まで」と回答。半数を超える61%の人が、2016年度の1年間に2回以上の学会に参加したと答えました。学会デビュー済みの人が多い修士2年以上の回答に絞って計算してみると、1年間に平均2.5回参加しているという結果になりました。また、56%の人が「定期的に参加する学会を決めている」と答えており、研究を進めるうえで、マイルストーンとして学会を活用している様子が見えます。

学会は、進路選択には活かさない？

では、学会に参加する若手研究者は、どのような目的をもって臨んでいるのでしょうか。回答数が

回答者の学年別内訳



学会活用法

多かった順に、研究成果を発表する(93名)、自分の研究に対する意見をもらう(88名)、他の研究者の発表を見て研究のモチベーションを上げる(81名)、となりました。やはり、自身の研究を直接的に深めたり前進させたりすることがメインになっています。一方で、「自分の進路を決めるため」と答えたのは14名と1割程度。学会が、研究キャリアを拓くきっかけになるかもしれない——そんな可能性に気づいている若手研究者は、まだそんなに多くないようです。

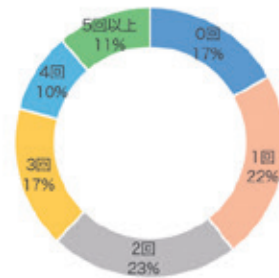
自ら行動を起こし、キャリアを拓く

「学会でこんなことができたらいいな」。若手研究者が学会に求めていることは何でしょう。アンケート結果によれば、異分野の研究者とディスカッションする機会(27%)を求める声が多かったです。学会は専門の近い研究者で組織されている場合が多いため、まったく異なる分野の研究者とここで接することはなかなか難しいのかもしれない。

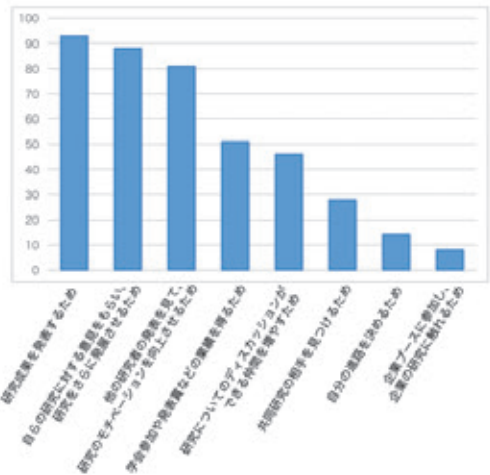
一方で、興味深かったのは、企業研究者やアカデミア研究者によるキャリアセミナーの機会を望む声があわせて25%を超えていること。学会で実施されているキャリア関連のプログラムはまだ充実しているとはいえませんが、ニーズは多いのかもしれません。

ところが、特別なプログラムがなくとも、自ら行動を起こすことでキャリアを拓くチャンスを掴んだ人たちがいます。次ページから紹介する若手研究者たちに倣って、いつもとは少し違う視点から、学会を活用してみませんか。(文・戸金 悠)

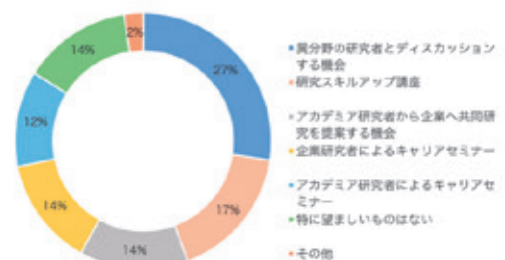
1年間(2016年度)に学会に参加した回数



学会に参加する目的(複数回答可)



学会であるとよいと思う機会



アピールタイムは発表時間の外にある！

航空宇宙分野は海外での研究が盛んだ。現在、コロラド大学ボルダー校で研究を進める佐々木貴広さんは、学会での出会い、学会で得られた成長の実感をきっかけに留学を実現した。そもそも博士課程に進学するかどうか悩んでいた佐々木さんは、学会を研究成果発表のみならず、道を拓く機会として活用している。

佐々木 貴広 さん
大阪府立大学
博士課程



憧れとの出会いから博士進学へ

修士を出て就職するか、博士課程に進学するか、揺らいでいた修士課程1年生のときから考えていたことがあった。「博士課程に進むなら1年間は留学したい。最先端の環境に身を置いて研究を進めたい」。佐々木さんの研究テーマは、人工衛星の姿勢制御のアルゴリズム開発。宇宙開発の分野において、日本はアメリカの予算の10分の1、民需も少ないというのが現状のため、最先端は海外にあると感じていた。

転機となったのは修士課程1年生の3月に参加した国際学会。宇宙での制御機構において著名であり、佐々木さんが読み込んでいた教科書を書いた憧れの先生が参加していたのだ。「プログラムを見るまで先生が登壇することを知らなかったの

ですが、ぜひ話してみたいと思いました。話しやすい人なのか、気難しい人なのか、という人柄も見てみたくて……。コーヒーブレイクで、意を決して話しかけました」。拙い英語でたくさんの質問をし、教科書に載っていない研究内容もたくさん教えてもらうことができた。キビキビと回答してくれる様子はもちろん、聞き取れなかったところを何度も聞き直したにもかかわらず、嫌な顔ひとつせず丁寧に答えてくれたことが印象に残っている。佐々木さんが惚れ込んだのは、研究テーマよりも人柄だった。「本物の研究者はカッコいい。こんな先生みたいになりたい」。博士課程への進学に心が決まった。

学会は成長を実感できる一里塚

博士進学は決めたものの、すぐに留学を選んだ



わけではない。「どのタイミングで留学に行こうか」。その決心を促したきっかけもまた学会だった。「決めたのは博士課程1年生の1月に参加した国際学会です。大きな学会だったのですが、光栄なことに学生賞のファイナリストに選ばれました。全7名の中で日本人は自分だけ、そして最年少だったということも大きな自信になりました」。振り返ると、修士課程1年生の頃には拙かった英語も、数多くの国際学会への参加を経て、スムーズにできるようになっていた。研究内容にも英語にも自信がつき、留学の準備を開始した。

博士進学を決意させてくれた先生に送った留学希望のメールに、「君のことはよく覚えているよ」と添えられた返事が来たことで、憧れの先生の下での挑戦が決まった。

研究だけでなく自分自身を伝えよう

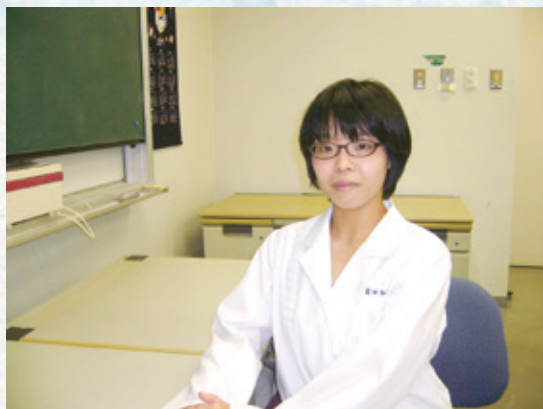
留学中も充実した研究生活を過ごし、就職先も決まった。今でもたくさんの学会に参加しているが、心がけているのは、必ずコネクションを増やしてくる、ということだ。「学会は長いものだと1週間くらい開かれます。その中で、発表の時間はたかだか20～30分。発表だけだともったいない」。そのために取っている行動は「自分をア

ピールすること」だ。セッションで積極的に質問し、自分を印象付ける。勇気や勢いも大事なファクターだ。「修士課程1年生のとき、自分が憧れの先生に声をかけることができたのは、ほぼ勢いでした。研究経験でいえば未熟ですし、知らないことがあって当然、と悪い意味で開き直すこともできました。あと、単身で学会に参加していたので、指導教官と一緒にという気負いもなかったことがよかったですね」と笑う。

コネクションをつくることはチャンスを拓くことにつながっている。博士課程3年生の今、修了までの半年間、企業でのインターンシップに参加し、学びを深めたいと検討している。学会で同じコロラド大学出身の日本人と知り合い、彼を通じて企業でのインターンシップができないか調整してもらっているところだ。佐々木さんにとって、学会で知ってもらえるのは研究成果だけではない。想いややりたいことを含めた「自分自身」を伝えることで、進む道をつくっている。(文・戸金 悠)

異分野の研究者との対話が、 自分を夢に近づけてくれた

「研究が好き。研究をしながら、研究の考え方の大切さを他の人にも知ってほしい」と夢を話す徳島大学の富田知里さん。しかし、現実では、自らの「研究を魅力的に伝える力」に課題を感じている。一步前に進むことができたのは、超異分野学会におけるポスター発表の場で、厳しくもあたたかい指摘をくれた、異分野の研究者のおかげだった。



富田 知里 さん

徳島大学大学院 栄養生命科学教育部
博士後期課程 3年

誰にも興味をもってもらえない

富田さんは、ラボでの研究発表に苦手意識もっていた。所属する研究室では大半のメンバーが筋肉に関する研究を行っており、がん細胞を扱う富田さんは少数派。「研究室で研究発表をしても、自分と違うテーマの人に対しては、自分が伝えたいおもしろさを伝え切れていないという実感があり、不甲斐なさを感じていました」。そんな状況が何年も続いていた。

異分野だから知れた、壁の打開策

転機は、様々な学問分野・所属の研究者が集まる超異分野学会にあった。ある先生にリクエストを受け、必死に研究内容を伝えようとするも、「難しい、わからない」と厳しい指摘を繰り返される。悩んでいると、「専門用語を一切使わずに話してごらん。わかりやすい例を使うといいよ」と助言してくれた。なんとかその場で実践すると、「やっとわかったよ。おもしろいじゃない」。富田さん

が、初めて異分野の人に自分の研究のおもしろさを伝えられた瞬間だった。「こうすれば、伝えられるんだ」。確かな感触を掴んだ。

研究室での実践で自信が確信へ

学会後、早速研究室の発表会で実践。がん細胞が転移する様子を満員電車の中を掻き分けて進む人に例えると、興味深そうに聞いてもらえた。「以前はうつむいていたメンバーが、顔を上げて聞いてくれるようになったんです」。その後も研究発表のたびに、教授や学生が楽しみにしてくれるようになったという。異分野視点での意見で研究を深めるだけでなく、魅力的に伝える力を鍛えられた超異分野学会で、富田さんは夢に一步近づいた。

(文・田浦 優磨)

第7回 超異分野学会 本大会 開催



大会テーマ

ヒトとは何か、そしてヒトをとりまく研究へ。

超異分野学会は、「Be Hyper-interdisciplinary(超異分野であれ)」をミッションに掲げ、細分化された知識に横串を通し新しい知識を生み出すためのプラットフォームです。アカデミアの研究者や企業、町工場の技術者、起業家、大企業の経営者・新規事業創出の関係者まで、研究、ビジネス、ものづくりなど様々な領域のプロフェッショナルたちが化学反応を起こす場として、他に類を見ない新しい学会の仕組みを作っています。

第7回 超異分野学会 本大会 概要

大会テーマ

ヒトとは何か、そしてヒトをとりまく研究へ。

開催日 2018年3月2日(金)、3日(土)

場所 TEPIA先端技術館

(東京都港区 北青山2丁目8-44)

ウェブサイト <https://hic.lne.st/>

ヒトとは何か——。我々が観察や分析などを通してこれまでに膨大な知見を積み上げてきたもののひとつは、間違いなく人間だろう。20世紀半ばに生まれた分子生物学の発展により、人類はタンパク質やDNA、RNAなど生体を構成する分子のレベルで生命現象を論じることが可能になった。DNAに書かれた生物の設計情報、ゲノム情報は、今や人間の場合でも1日もあれば解析できるようになった。かつて、1990年に始まったヒトゲノム計画で完了までに13年を要したことを比べると、ゲノム情報は、得ようと思えばすぐに



手に入るレベルの情報へと変化した。さらに、デバイスを使えば人の行動ログや心拍などの生体データも容易に得られるようになってきた。こうした様々な知見や技術を統合することで何が生まれるのか。本大会では、「ヒトとは何か、そしてヒトを取りまく研究へ」をテーマに点(0次元)である参加者と多次元の新領域を拓くためのチャレンジをする。自身の想いと研究を軸に、化学反応をもたらす研究者にぜひご参加いただきたい。

企画紹介 (一部抜粋 詳細はWEBをご覧ください <https://hic.lne.st/>)

シンポジウム&パネルディスカッション

人をサポートするロボティクス技術、生体の非侵襲計測、次世代型の町工場、SF世界を具現化する技術、知識科学など、多様なテーマでシンポジウムやパネルディスカッションを行います。さらに、人に関する統合解析と研究を行うヒューマノーム研究所、異分野融合型の海底探査技術開発DeSETなど、リバネスが仕掛ける新しい研究のかたちについても発表を行います。

超異分野ポスターセッション

脳(感覚、知覚)、免疫・寄生虫、ホメオスタシス・サーカディアンリズム、非侵襲計測、創業新技術、AI、ロボティクス、VR・AR、食をとりまく新技術、HRテック、身体拡張、モビリティ、ロコモティブ・老化、Visual SLAM、マリンテック、マテリアル、SF世界を具現化した技術などを中心に、多様な研究者、ベンチャーによるポスターセッションを行います。

発表演題募集 9月中旬より開始!

リバネス研究費で「あなたの」研究を始めよう

自由な研究を応援します！

リバネス研究費 L Nest Grant

採択が出発点。「何か」が始まる研究費。

新たな着任先でラボ作りと日々の消耗品に頭を悩ませていたある日、聞いたことのない研究費の公募を大学院生が見つけてきました。「リバネス研究費？何それ？」多少訝しく思いながらも、とにかく応募できる研究費には応募していた僕は、早速申請書を出しました。これが、後に様々なチャンスを運んでくれることになるとは思いませんでした。

僕が考えるリバネス研究費の最大の特徴は、採択をきっかけに「何かが始まる」ということ。研究費をもらって終わりではなく、支援企業と一緒に研究を進めていく。駆出しPIの僕にとって、機材・消耗品・解析の支援を頂きつつ実験の立ち上げができたのは、まさに渡りに船でした。

また、この「何か」は研究だけに留まりません。支援企業と僕、それぞれが主催するイベントに相互出演するなど、貴重な経験や人脈を得ることができました。10月にも、リバネス研究費で知り合った方々と一緒に「学生のためのキャリア発見シンポジウム～先人たちの研究人生解体新書～」というイベントを開催します。



いまむら まさのり

今村 公紀 さん

京都大学 霊長類研究所 助教

将来の夢＝県庁職員だった富山の高校生は、金沢大で生命科学の面白さを知り、大学教員を志す。とくにES細胞に心を惹かれ、奈良先端大、京都大、三菱化学生命科学研究所にて修行。学位取得後は滋賀医科大、慶應大を経て、「iPS細胞と進化」「生後発育」をテーマに霊長類研究所にて現在奮闘中。

採択をきっかけに、何かが始まる。どう活用するかは、自分次第。この出会いは、使い方次第で研究費よりも遥かに価値のある結びつきになるでしょう。 (寄稿)

学生のためのキャリア発見シンポジウム～先人たちの研究人生解体新書～

進学？就職？どうやったら研究者になれるの？

将来に不安や悩みを抱えている君へ。偉大な先人たちの人生をのぞいてみませんか？

人生のターニングポイントでどのように考え、行動したのか。各方面で活躍する研究者たちがみなさんの疑問に赤裸々に答えます。

研究内容よりも人生のお話がメインなので文系も理系も大歓迎！

研究者を志す全てのひとに贈る人生解体講座！

■日時：日時：10月7日(土) 13:00～18:15

■会場：京都大学国際科学イノベーション棟5階 シンポジウムホール

リバネスでは2001年の創業以来、一貫して研究を志す若手人材の育成を続けてきました。「科学技術の発展を支え豊かな社会を実現する研究者」を育て社会に輩出する——。その想いをかたちにしたのが、研究助成制度「リバネス研究費」です。自分の研究に熱い思いをもっている学部生・大学院生～40歳以下の若手研究者からの応募をお待ちしております。

第38回 リバネス研究費 募集要項発表!!

●大阪明星学園賞

対象分野

大阪明星学園と連携して学校教育を発展させようとする研究
 ・新規性や独自性の高い教育プログラム、教材、学習支援ツール等の研究開発
 ・学校運営に関わる業務を円滑化する各種システムの研究開発
 ・各種テクノロジーの学校現場を活用した実証研究
 上記の他、広くアイデアを募集いたします。

採択件数 若干名

助成内容 研究費上限50万円 大阪明星学園中学校・高等学校を
 実証フィールドとして活用可能

申請締切 2017年11月30日(木) 24時まで

●カイオム賞

対象分野

下記の疾患領域における抗体医薬による治療法開発に有用な研究
 ・難治性がん・希少疾患・指定難病

採択件数 若干名

助成内容 研究費50万円 (マイルストーンにより追加250万円の
 研究費も準備しています)

申請締切 2017年10月31日(火) 24時まで

●ディープラーニング賞

対象分野

ディープラーニングに関わるありとあらゆる研究
 情報学だけでなく、農学や環境学、工学、複合領域など分野やキーワードに
 しばられない研究テーマを広く募集いたします。

採択件数 若干名

助成内容 研究費50万円 ソニーネットワークコミュニケーションズが用意するクラウド環境でのディープラーニング
 学習利用権 100万円相当:1件
 上記学習利用権のみの助成:3件

申請締切 2017年9月30日(土) 24時まで

●町工場IoT賞

対象分野

IoTを絡めた町工場の生産性向上に繋がる全ての研究

採択件数 若干名

助成内容 研究費上限50万円、町工場での実証場所提供

申請締切 2017年10月31日(火) 24時まで

●L-RAD賞

対象分野

自然科学、社会科学、人文科学の研究、開発、調査全般

採択件数 2017年9月1日より10月15日までにL-RAD
 に登録された申請書の中から若干名

助成内容 研究費上限50万円

申請締切 2017年10月15日(日) 24時まで

採択者発表

第34回

メタジェン・腸内デザイン賞

本賞 自治医科大学分子病態治療研究センター再生医学研究部 原 弘真
 研究テーマ 腸内細菌ヒト化プラを用いた和食の健康増進機序の解明を目指した研究
 奨励賞 The University of Michigan Medical school 北本 宗子
 研究テーマ 腸内細菌/代謝環境の是正を介したIBD関連偽膜性腸炎の新規治療法の確立
 奨励賞 東京大学大学院工学系研究科 金子 和正
 研究テーマ 腸内細菌叢とT細胞レパートリーの数理モデリングによる免疫状態の
 理論解析
 奨励賞 九州大学 システム生命科学府 原 朱音
 研究テーマ アレルギーを腸から改善するT細胞分化系~腸内細菌叢結合ダイナ
 ミクスの数理モデル構築と数理解析~
 奨励賞 東京大学 新領域創成科学研究科 メディカル情報生命専攻 平岡 聡史
 研究テーマ ロングリードが明らかにする腸内細菌叢における微生物ゲノム構造多様性
 奨励賞 東京大学 生産技術研究所 炎症・免疫制御学社会連携研究部門 加藤(安
 井) 美加
 研究テーマ 腸内常在性ファージによる代謝性疾患制御メカニズムの解明

第35回

L-RAD賞

本採択 三重大学大学院 生物資源学研究所 水圏材料分子化学教育分野 伊藤 智広
 研究テーマ 富栄養化環境に適応した陰日性サンゴに含まれる機能性成分の医薬・
 化粧品への利用
 奨励賞 京都大学 霊長類研究所 ゲノム細胞研究部門ゲノム進化学分野 今村 公紀
 研究テーマ アルツハイマー病を引き起こす分子基盤の霊長類種間比較

第35回

ORGANOGENIX賞

採択者 Salk Institute for Biological Studies Gene Expression Laboratory
 研究員 畠中 史幸
 研究テーマ ニューロスフェロイドを用いた老化メカニズムの解明

第36回

海底探査推進特別賞

本採択 理化学研究所 生命システム研究センター 集積バイオデバイス研究ユニ
 ットユニットリーダー 田中 陽
 研究テーマ 着底生物エネルギーを利用した海底探査エージェン
 本採択 中央大学 大学院 理工学研究科 精密工学専攻 修士1年 只見 侃朗
 研究テーマ 広域な深海底下探査を可能にする、ミミズの蠕動運動を規範とした埋
 没型掘削ロボットの開発
 本採択 東京大学 生産技術研究所 准教授 巻 俊宏
 研究テーマ 低コスト・高速・低高度海底フォロー AUVの可能性
 本採択 東京大学大学院 工学系研究科 修士2年 園部 宏和
 研究テーマ 個人向け格安深海探査機SONOVY300の開発と海底地図の作成について

第36回

クラレ賞

採択者 熊本高等専門学校 生物化学システム工学科 助教 本田 晴香
 研究テーマ ヒト由来毛乳頭細胞スフェロイドに対する育毛剤・抗がん剤成分の効果

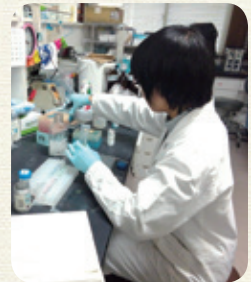
詳しくはこちらをご覧ください <https://r.lne.st/grant/about/>

まだまだ使えるホワイトボード

～研究のムチャを防いで、持続可能な研究生活～



紹介者



バイオ・医学系 D3
長所：真面目
短所：真面目すぎる

どこの研究室にもひとつはあるであろう、ホワイトボード。みなさんはどのように使っていますか？ラボメンバーの居場所を表したり、実験中のメモ書きや、ディスカッションにも使えるなど、簡単に書いて消すことができる便利なアイテムですよ。

私もホワイトボードを愛用しています。100均で買った特徴のないものですが、今日もデスクの片隅で、私の「持続可能な研究生活」のために働いてくれています。私とホワイトボードの出会い

いは、「自分の体調を無視した研究生活は続かない！」と気づいたD2の秋。そこで、ToDoをボードに書き、体調ベースで「する/しない」に分けることを始めました。やってみて1番の変化は、自分を不必要に追い込まなくなったこと。調子の悪い自分を認めて、最低限の仕事だけをする日（たまに）作ったほうが、研究の効率が上がりました（ムチャはよくないですね）。最近お疲れモードな方、お試しください。（文・富田 知里）

研究に効くホワイトボードの使い方

①気分を表す指標（4段階）を書く



②前日に予定を書く

赤字…他の人との約束や締め切り
黒字…やらなくてはならないことすべて



③当日の朝、直感で今日の自分のコンディションのところにマグネットを貼る

これをもとに今日やることに赤丸を付ける

例) ◎…タスクの70%に赤丸

○…タスクの50%に赤丸

△…タスクの30%に赤丸

×…赤字のものさえ終わればOK



探しに行こう 自分の場所

目標を見つけ、実力を養い、理想の場所にたどり着くために
どんな道を進むべきだろうか。

どんな研究者になりたいのか、活躍するには何が必要なのか。
そして、どんな研究キャリアがあるのか。

ただ、じっと待っていても答えは見つからない。
いろいろな人に会い、さまざまな場所を見ることで
自分の未来を描くヒントを見つけよう。

変化を楽しみながら
さあ、自分の場所を探しに行こう。

本物の教育を追究する、 真面目で不器用な研究者

浅見 貴則 さん

株式会社パラリア 代表

「起業するなら大学受験だ」。そう言って学習塾を立ち上げた浅見貴則さんは、現在、東京工業大学工学院経営工学系の博士課程で研究を行いながら、学習サロンパラリア春日部・東大前の2店舗を運営している。理論と実践の両立を重視し、本当に意味のある受験指導を追究する若き経営者兼研究者の胸の内に迫った。



裏で人の人生を変える仕事がしたい

浅見さんが起業するにあたって大学受験をそのフィールドに選んだ背景には、あるひとりの数学教師がいた。「自分が12～13行もかけて解いた問題を、その先生がわずか2～3行で解いたときは、本当に大きな衝撃を受けました」。現役時代、ずっと勉強していたのに志望校合格を果たせなかったのだが、その先生に教わるようになってから数学の点数が劇的に伸び、東京工業大学へのチケットも手に入れることができた。

その先生は、「すぐ怒ったり、字が汚かったりで、周りからの評判は悪かったけど、本当に数学ができる人でした」と浅見さんは話す。「表立っては嫌われているかもしれないけど、こんな人がいるの

かと思われました。人から見えなくて人の人生を変える、生き方がかっこよかったんです」。この出会いが大きな転換点となり、浅見さんは本当に意味のある教育とは何かを考えるようになった。

怠け者だからこそストイックに

「僕はもともと怠け者なので、厳しい環境に身を置くしかないんです」と、はにかんだような笑顔を見せる浅見さん。将来の学習塾設立に向けて必要だと思われることは、自分が苦手なこと、嫌なことでも取り組んだ。その経験の積み方には、彼の不器用な真面目さがよく表れている。営業力が必要だと言われれば、大の人見知りにもかかわらず光ファイバーの飛び込み営業に乗り出す。お

金の知識が必要だと聞けば、借金をしてみたり、携帯アプリや投資のセミナーに通ってみたり。「消費者金融で110万円を借りたときには、説明できない汗が5分間くらい流れ続けました。

イベントに行っても、自分を誘ってくれた人以外には誰も知っている人がいないパーティー会場では、端っこでスイーツを食べることくらいしかできない。それでも、「せつかく来たんだから何かを得て帰らない」という思いから、パーティーの運営者と繋がりを築き、そこから紹介を受けて出会ったのが、現在のパラリアの共同創業者となる人だった。

授業を行わない塾「パラリア」の開設

パーティーでの出会いから3か月後、ついに学習サロンパラリアを春日部にオープンさせた。サロン名の由来は「パラレル・リアリティ」。友だちにも先生にも親にも言えないけれど、パラリアなら自分の本当の目標について話せる。そんな高校生で溢れる場を夢見てこの名を付けた。

そして、浅見さんはここパラリアで、これまであたためてきた独自の指導形態を実現した。それは、授業は一切行わず、自習環境を最適化するというもの。生徒が嫌いな教材は使わない。生徒に合わない勉強法は採用しない。集中できない時間帯は勉強しなくていい。高校生ひとりひとりの資質、好み、性格、経験、生活習慣などあらゆる面を考慮し、ひとりひとりに最適な学習方法をデザインする。「誰にとっても最適となる万能な学習方法は存在しない」からこそ、それぞれにとって最適な学習方法・学習環境をデザインするのがパ



ラリアの信念なのだ。

現場で研究して、研究を現場で活かす

浅見さんは、経営者でもあり、大学院博士課程の学生という研究者の顔ももっている。なぜパラリアの経営に専念しないのか？と問われた彼は、「本物には理論と実践の両輪が必要だから」と答えた。「僕が所属している研究室は、オフィスレイアウトや暗黙知について研究していて、そこから得られる知見はパラリアの指導と相性がいいんです」。アカデミアからの知見を取り入れた指導や経営を行い、また現場で得られたデータを活用して研究を行う。研究室の教授も「研究室で研究していないで、現場で研究しなさい」と言う。経営者兼研究者として忙しい毎日を過ごしている浅見さんは、本当に意味のある指導を追い求めて、これからも突き進んでいくのだろう。

(文・矢野 圭祐)

浅見 貴則 (あさみ たかのり) プロフィール

1991年生まれ。大手予備校講師、個別指導、映像塾アドバイザーをはじめ、家庭教師、フェロー、チューター等、大学受験指導に関するあらゆる業務を経験し、2016年に株式会社パラリアを設立。現在は、学習サロン2店舗を経営しながら、東京工業大学大学院経営工学系博士課程にて研究も行っている。

会社での研究経験が、 僕を「研究好き」に変えてくれた

谷田 任司 さん

京都府立医科大学 大学院医学研究科 解剖学教室 生体構造科学部門 助教

念願叶って就職できた会社で、夢中になって研究をする3年間を送った。そこで「自分らしい研究スタイル」に気づき、現在は医学部で奮闘しているのが、京都府立医科大学の谷田任司さんだ。「会社にはすごく感謝している。あの3年間がなかったら、僕はこんなに研究を好きにならなかったかもしれない」。



「毛を生やすって、夢があるよね」

修士課程を修了したあと、ライオン株式会社に研究職として就職した。配属されたのは、育毛剤に関する研究チームのひとつ。どのチームも、専門の異なる5名ほどのスタッフで構成されている。「僕がいたチームには、分析のプロがいたり、動物実験ができる人がいたり、スキンケアに詳しい人がいたり、それぞれが何かで尖っていました」。そんなメンバーで行うディスカッションが、谷田さんの楽しみのひとつでもあった。「ひとつの同じデータなのに、専門の違う人を見るとこんな意見が出てくるのか、と驚きました。まったく見たことのない世界でしたね」。学生時代にはやったことのない実験の手技を身につけることもできた。

「生えないのが常識」の育毛業界に風穴を開けてやろうと、谷田さんは研究に熱中した。チームにも「圧倒的な効果のある育毛剤をつくろう」というミッションが課されていた。「なんて楽しいテーマだろう」。毎日、ひとつひとつの実験データや調査結果に一喜一憂しながら取り組んだ。

この先の人生を、何に使おうか

風向きが変わったのは、入社して3年が経とうとしていた頃だった。育毛剤開発についての部署の方針が変わったのだ。「自分がやりたいことと会社が求めていることが一致しているときは、それがすごいエネルギーになって前に進むんだけど、それが乖離したときに、自分のパワーを研究に注ぎにくくなったのを感じました」。谷田さん

はそれまで楽しく仕事をしていただけれど、周りには愚痴を言う若手社員もいた。「もっと前向きに頑張ったらいいのになあ、と思いながら彼らを見ていただけれど、このときに、『みんなが苦しんでいたのはこういうことだったんだ』とわかるようになりましたね」。

時を同じくして、大学の恩師からアカデミックポストへの誘いがかかる。実は、入社と同時に社会人枠で大学院後期課程に進学しており、無事に博士号を取得したタイミングでもあったのだ。谷田さんは、この先の人生40年を何に使うか考えた。苦しいかもしれないけれどやりたいことをやる40年と、会社に合わせてなんとか頑張ってやっていく40年――。谷田さんは、迷いに迷った末に勤めていた会社を辞め、誘いのあった京都府立医科大学へとチャレンジの場所を移した。

自分でないとできない仕事をしたい

谷田さんがやって来たのは、医学部の解剖学教室。谷田さんの出身は農学部だから、まさに新天地だ。しかし、これまでとはまったく異なる分野に飛び込む不安は、谷田さんにはなかった。「大事なのは、最もおもしろい仕事をするところから」。現在は、ホルモン分子や栄養・代謝産物の過多など、細胞外環境に応じた転写因子の動態とその生理的意義を探ることをテーマに研究を行う。

着任して早々に谷田さんを苦しめたのは「解剖実習」だった。解剖学教室の教員として教壇に立ち、学生たちに指導をするのだ。実習の時間そのものがとても多いのはもちろんのこと、その予習にも、医学の基礎知識をもたない谷田さんは人一



倍の時間を要した。研究の方でも、最初の1年間はまったくデータが出ないという状況。谷田さんの焦りは増すばかりだったが、ただひたすらに耐えてやり過ごすしかなかった。

3年目になって、やっとデータが出始めた。研究費もコンスタントに獲得できるようになり、谷田さんの研究は、遅まきながら軌道に乗ってきた。時間は限られているけど、それを言い訳にしないでちゃんと成果を出していく。それが今の谷田さんのポリシーだ。

生涯の目標は「自分が生まれてなかったら、この世の中には絶対にあり得なかったものをつくること」だという。「自分がいなくても、月日が流れていたら誰かが発見するだろうというものではなくて、僕だったからできた、そういうことができたら一番いいですね」。谷田さんのチャレンジは、まだ始まったばかりだ。 (文・磯貝 里子)

谷田 任司 (たにだ たかし) プロフィール

2007年、神戸大学大学院自然科学研究科応用動物学専攻 博士課程前期課程修了後、ライオン株式会社に入社。また、神戸大学大学院農学研究科資源生命科学専攻 博士課程後期課程に入学。2010年3月にライオンを退職し、同年4月より現職。専門は神経解剖学、神経内分泌学、細胞生物学。博士 (農学)。

変化を厭わない姿勢が 研究をつなげていく

片倉 賢紀 さん

城西大学 薬学部 薬科学科 准教授

ひとつの研究テーマを徹底的に突き詰めるのか、あるいは関心の赴くまま別のテーマに取り組むのか。研究者は誰でも一度は悩んだことがあるかもしれない。城西大学の片倉賢紀さんは、研究分野や研究機関を転々とするなかで、その都度視野を広げてきた。今、研究テーマや研究環境について何が見えているのだろう。



異分野を歩いた経験が、独自の発想を生む

自身の研究キャリアを城西大学の薬学部でスタートさせた片倉さん。ペルフルオロオクタン酸という化学物質が尿から体外に排泄される機構に性別の違いがどのような影響を与えるのかについて、研究を行っていた。毒性学という学問分野で博士号を取得した片倉さんだが、薬学の枠に捉われたくないと考え、博士号取得後に同大学の医療栄養学科の門を叩いた。1年間、助手として栄養学と薬学に関する研究に従事した後、さらに自身の専門性を広げるために、島根大学の医学部を次のキャリアに選んだ。「初めて医学分野の研究に携わり、薬学とは実験手法が全く異なる環境に驚くと同時に、『視野が広がる』ということを実感しました」。

城西大学では、化学物質の物性から体内動態、

薬効成分の抽出・精製・分析技術まで幅広い知識を身につけ、主に細胞や組織を扱っていた一方で、島根大学では、細胞組織に留まらず個体全体を対象に、体の機能や疾病についての研究に携わった。現在片倉さんが取り組む研究テーマは、慢性腎不全の進行が脳や他の臓器の機能に与える影響を解明するというものだ。腎臓と脳など、一見関連性がないように思える臓器間の相互作用に着目したのは、様々な分野を渡り歩いた経験が活かしているという。「このような境界領域の研究は薬学と医学の両方の視点をもっていたから生まれた発想だと思います」。

分野も立場も取り払った場所をつくる

自分に向いている研究スタイルに気がついたのは、留学がきっかけだった。研究室の環境や雰囲気は、国や組織、分野によっても異なる。島根大

学医学部に在籍中、アメリカの国立アルコール乱用・依存症研究所 (NIAAA) へ留学する機会を得た片倉さんは、日本と比べると、効率を重視した研究環境に驚いたという。研究室単位でも高性能な研究機器が充実しており、その機器のみを使って専門的に研究する人材がいた。メインキャンパスでは毎日のように有名な研究者のレクチャーを聞くことができ、研究者を養成する支援体制も整っていた。その反面、結果次第では次年度の研究費が削減され、時にはラボを閉めなければならないシビアな一面もあったが、思い切り研究をやりたい片倉さんにとっては、天国のような場所で、一日中研究に没頭していたという。そのような研究三昧の日々の中で、ラボの仲間から言われた言葉が今でも片倉さんの心に残っている。「研究者は同等で、自由だ。どこにしようと自分の考えで好きな研究をすればよい」。

この言葉を胸に、日本に帰国した今、片倉さんは既存の研究分野の枠に捉われない研究スタイルを築きたいと考えてきた。研究室の学生たちとも互いにアイデアを持ち寄り、ディスカッションを重ねることで、自分とは異なる視点をもつ人の意見を聞ける環境づくりを大切にしている。他分野の研究者のみならず、企業や自治体との連携により、街づくりにまで視野が広がりはじめた片倉さん。分野を変え、環境を変え、様々な人と出会い、次第に片倉流の研究スタイルが確立されてきたのだろう。

変わることを恐れずに進め

修士課程、博士課程、その先と大学での研究キャリアは人によって様々だ。学生にとっては、その過程でどの研究室を選ぶかは重要な問題である



う。「研究分野や環境を変えることは悪いことではありません。自分にとって最適な研究キャリアを選び取るためにも、変化を恐れず様々な環境や人に触れてもらいたい」と語る。片倉さんの所属する学科では、早期から研究の世界を知ってもらいたいと、学部2年生から研究に携わることができる環境をつくっている。また、大学院へ進学する学生には、学生自身のやりたいことに最適な進路を選べるように意識しているという。

一辺倒にならずに多様な状況に身を置くことが人の成長を促す。選択の結果、研究分野が変わったとしても、自身の中に蓄積された知識の点と点がつながり、やがて線となるだろう。それが、自分だけの考え方や研究テーマを確立する助けとなるに違いない。(文・井上 剛史)

片倉 賢紀 (かたくら まさのり) プロフィール

2004年3月に城西大学薬学部の博士後期課程を修了後、同大学薬学部医療栄養学科で1年間助手を務める。その後、島根大学医学部に助手として着任。その間、国立アルコール乱用・依存症研究所 (NIAAA) への留学を経験。また、2015年3月に博士号(医学)を取得。2015年9月より城西大学に戻り、現職として研究を行う。博士(薬学)、博士(医学)。

ビビッと来たら即行動。 結果は後からついてくる

中尾 知美 さん

京都大学大学院 生命科学研究所
博士前期課程1年



「少しでも興味を持ったことには即行動に移すことにしているのです」と話すのは、京都大学で脳の発生について研究をしている中尾知美さん。大学受験時に志望大学の判断を周りに委ねてしまい、入学後、自分がしたいことを本当にできているのか、と葛藤した経験があった。今は、直感に従えば、自分のキャリアも自然と見えてくるはず、と考えている。

直感から見えた、やりたいこと的一端

大学4年生の夏、ひょんなことからネパールの教育事情を耳にし、「実際に見に行くしかない」と直感的に判断した中尾さん。その2週間後にはネパールの地を訪れていた。当時拭えなかった将来への不安に一条の光を見せてくれたのは、トタン屋根だけの学校で勉強をしている子どもたちの笑顔だった。「辛い環境のはずなのに、揃って『勉強が楽しい』と言うんです」。ここで何かができるのではないか。中尾さんは、再びここに戻ってくることを決意した。

経験が興味の方向を見出してくれる

「私がネパールに行くことは、多くの人に心配も迷惑もかける。反対するみんなも私のことを思っただことだとわかっていました」。しかし、周囲を説得し、1年間の教育支援活動を実現。ネ

パールで見えたのは、自分が教育に興味がある、ということだ。「幼少期から経験してきたアメリカ・イギリス・日本に加え、ネパールの教育を知り、それぞれが『違う』というおもしろさを感じました」。直感に基づいたチャレンジは、中尾さんに大きな気づきを与えた。

興味はひとつじゃない、あとで線になる

現在は大学院での研究生活に戻っており、企業でのインターンシップも開始した。「教育に興味はありますが、それだけだとも思っていません。ビビッと感じたものは全部、きっと興味のあるものだと思っています」。そうして得られたすべての経験の点はいずれ線になり、「これが自分なのだ」と胸を張れる自分になれるはず。彼女はそう確信し、今日も直感に基づいた挑戦を続けている。

(文・大安 晃)

未来を掴む

「あんな研究者になりたい!」

目標が見つかったならば、そこに到達するための試行錯誤を繰り返し
一歩ずつ、でも着実に近づいていこう。

定める目標は、人それぞれ。
必要なことも、ひとりひとり異なるだろう。

共通するのはただひとつ、
やるべきこと、やりたいと思ったことを実際に行うこと。
最初は躊躇するかもしれないが、動いた分だけ目指す自分に近づくはずだ。
その一歩を踏み出すことで、見えるものが変わる。

自分の未来を、自分の手で掴みとろう。

あなたが目標に近づくための「一歩」をお手伝いします

研究キャリアの **相談所**



研究で培った考え方を活かし、社会で活躍したいすべての人のための相談所です

<https://r.lne.st/career/>

キャリアディスカバリーフォーラム開催報告



異分野に飛び込んで研究経験を活かす、 研究者の新しいキャリア観がここに

6月24日、日本科学未来館にて研究者のキャリアを考えるイベント「キャリアディスカバリーフォーラム」を開催しました。本イベントでは、大企業、ベンチャー、研究者をミックスし、双方向で発信していくことで、偶発的な出会いを生むパネルディスカッションや企業ブース交流の機会を用意しました。自分の分野に関連する企業・研究者だけでなく、異分野やこれまでに出会ったことのない人材とぶつかりあい、それぞれが見据える未来のキャリアを議論することで、人材の流動化やオープンイノベーションが加速する。そんな世界を目指して開催された本イベントに、259名の参加者が集まり、研究者のキャリアに対する新しい発見がありました。

企業研究者に自分を語る、双方向の コミュニケーションで自分の居場所の広がりを感じた！

企業ブースでは、企業の一方的な会社説明にとどまらず、参加者からの研究自己紹介をしました。「違う分野の人に自分の研究が伝わるのか」と最初は不安だった参加者も、「しっかり興味をもって聞いてくれた」「自分の研究と企業の接点が議論できた」と自信になり、将来の可能性を感じることができたようです。



自分の好きなこと、やりたいことを企業と語れる場所は他にはない！と感じた。

自らをどこかの会社に合わせるのではなく、熱意を持ってどこに行くかが大事だと感じた。

研究を活かせる場所はたくさんある！ 企業からの熱いメッセージ

「企業と研究者で研究者の新しいキャリアを考える」という目的で開催された講演やシンポジウム。分野をまたがり研究を続ける企業の研究者のキャリアや、研究を伝える力を発揮して別の場所で活躍する方法など、企業の中で研究者が研究経験を活かすヒントとなる話がたくさんありました。



キャリアを固めてからでないと就活はできないと思っていましたが、考えながら働く、という考えもあるのだなと新鮮だった。

自分の専門性を活かさなければいけないと思っていたが、今ある知識と組み合わせ方で変わるのかなと思った。

■日時：2017年6月24日(土)
■場所：日本科学未来館
■主催：株式会社リバネス
■参加者：学生、企業合わせて259名
詳細はこちら <https://cdf.lne.st/>

企業講演・パネルディスカッション
「創業124年目のベンチャー企業が目指す研究開発」森下仁丹株式会社
「研究への熱を、イノベーションの起爆剤にする」三井化学株式会社
「研究データベースから見た日本の研究者の未来とは？」株式会社バイオインパクト
「地球最後のフロンティア、海に挑む研究者たち」ヤンマー株式会社 他
「博士が3年で即戦力になる」株式会社リバネス 他

研究を社会に役立てるしくみは自分でつくることができる

横浜市立大学大学院 生命医科学研究科 博士前期課程 2年
栗原 美里



私の研究はがんの発症に関わるとされるタンパク質の機能と構造の解析だ。いつか人の役に立てたいと研究を行っているが、基礎研究を社会に還元するまでの道のりはあまりに遠い。将来、製薬企業で薬を世に出すというかたちでわかりやすく社会貢献できる研究開発に参加できれば希望が満たされるだろう、と考えていたが、確信はなかった。

そんな折に参加したCDFで、私は考えを改めさせられた。CDFに集まる企業研究者の方々は、

みな、社会に対する課題感を抱いていた。そして、誰かが解決してくれるのを待たず、自分がやると走り出した方々ばかりだった。「ビジネスはそのための手法」という考え方は、今までの私にはなかった。社会に対する自らの思いと研究技術、持続可能な事業にするためのノウハウを組み合わせ、社会課題に役立つ価値を生み出すことができる。社会貢献するための方法は既にあるしくみに入ることだけではない、と発見することができた。

「伝える力」がキャリアを切り拓く

大阪府立大学大学院 工学研究科 博士後期課程 1年
大安 晃



「技術を社会に役立てる研究をしたい！」私は企業研究者を目指している。しかし、企業説明会はあまり好きではなかった。企業からの話を聞くだけでは、そこで働く実感がわからず、研究紹介をしても「結局は指導教官の研究内容でしょ？」と言われて悔しい気持ちが残ることもあった。

固定観念は本フォーラムで覆されることとなる。企業ブースで自己紹介と研究紹介の機会を先にいただき、その内容を元に議論できた。最初は噛み砕くことに苦戦したが、研究の独自性、社会性も含めてしっかり伝わると、「うちの抱えるこ

の問題を解決できるだろうか」と相談されることさえあった。企業の方から、ひとりの研究者として対等に扱ってもらえたのだ。

私はこの経験を通じ、キャリアの開拓には「伝える力」が不可欠であることに気づいた。研究や考え方を含めた「私」という人間を知ってもらうことで初めて対等に議論することができるのだ。と。早速、次の学会において、専門外の人にどれだけわかりやすく伝えられるかを念頭に置いて発表に臨み、今回の気づきを一過性のものにしないように心がけたい。

研究と両立しながら、ビジネスを知る

株式会社リバネスのインターンシップ

研究をされていてこんなことを思ったことはありませんか？「自分の研究経験はどんなことに活かせるのだろうか」「研究ばかりやってきたが、学生のうちにビジネスに触れてみたい」。そんなあなたの想いを実現するのがリバネスのインターンシップです。研究室との両立ができるよう、会社に足を運ぶのは毎週日曜日に設定しています。あなたの研究経験と情熱を活かしたビジネスに、挑戦してみませんか？



Q インターンシップに参加したらどんな活動ができますか？

A 参加できるプロジェクト例をご紹介します。

【通年】実験教室の企画・運営

研究の魅力を語る、子ども向けの出前実験教室サービスの企画・運営に挑戦できます。インターン生を中心にチームを組み、プロジェクトを遂行します。



【通年】雑誌制作

本誌『incu・be』や中高生のための研究キャリア・サイエンス入門『someone』の記事の企画、取材、記事執筆までを行います。



【10月～12月】中高生のための学会運営

2017年12月、関東・関西・東北・九州の4か所で、中高生のための学会「サイエンスキャッスル」を開催します。そこでのイベントブースの新企画立案を行います。



Q インターンシップに参加するには？

A 研究室との両立ができるよう、週1回、毎週日曜日に開催しています。いつからでも参加可能ですので、まずは一度見学にお越しください。

インターンシップ参加申込・問い合わせ <https://lne.st/recruit/internship/>



【インターンシップ募集要項】

参加期間：半年以上2年以内、基本的に毎週日曜日に参加できること

参加者：学部3年生以上を推奨

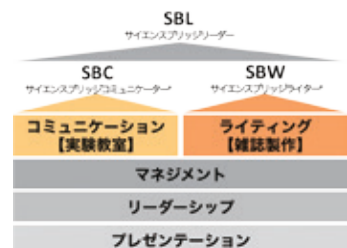
開催場所：リバネス東京本社 / リバネス大阪事業所 / リバネス生産技術研究所（沖縄）

給与：取材・雑誌媒体への記事制作費 / 実験教室当日の人件費・交通費のみ支給

Q インターンシップで鍛えられる力はなんですか？

A 社会課題に目を向け、科学技術を活かして世の中に貢献していく人材に必要な基礎力を鍛えることができます。

リバネスのインターンシップに参加することで、科学技術をわかりやすく伝えるスキルと共に、プレゼンテーション、リーダーシップ、マネジメント、コミュニケーション、ライティングの各種スキルを、実験教室や雑誌制作を通じて鍛えることができます。認定要件をすべて満たし、面接を経ると、「サイエンスブリッジコミュニケーター® (SBC)」の資格を得ることができます。



研究室の外に出て、普段とは違う「熱」に触れてみよう

インターンシップの他にも、リバネスが学生向けに実施しているイベントを紹介します。

これからの研究者に必要なちからを磨く

サイエンスブリッジリーダー育成講座 2017年後期講座

株式会社リバネスでは、科学を軸に、社会の中で課題を見つけ、新しい価値を生み出すことのできるリーダー人材を「サイエンスブリッジリーダー (SBL)」と位置づけ、独自に認定しています。座学研修では、アカデミアや企業で活躍する際にも重要な、リーダーシップ、コミュニケーション、プレゼンテーション、ライティング、マネジメントを鍛える方法を学ぶことができます。

■ スケジュール

研修名	日程
リーダーシップ研修	11月26日(日)10:30～12:00
コミュニケーション研修	12月3日(日)10:30～12:00
プレゼンテーション研修	12月10日(日)10:30～12:00
ライティング研修①	1月14日(日)10:30～12:00
ライティング研修②	1月21日(日)10:00～12:00
ライティング研修③	1月28日(日)10:00～12:00
マネジメント研修	2月4日(日)10:30～12:00

■ 注意事項

- ・原則、全講座の受講をおすすめします。
- ・ライティング研修は3回連続受講可能な方のみ受講可能です。
- ・座学研修だけではサイエンスブリッジリーダーの資格は得られません。資格認定には、実地研修と最終面談が受けられるリバネスのインターンシップへの参加が必要になります。

■ 会場

東京会場：株式会社リバネス 知識創業研究センター
東京都新宿区下宮比町1-4 飯田橋御幸ビル4階

大阪会場：株式会社リバネス 大阪事業所
大阪府大阪市中央区北浜1-5-7 北浜MDビル2階

■ 受講料

テキスト代：3000円

受講料1講座あたり：学生1000円 社会人3000円

*申込み後、銀行振込み

■ 申込み・詳細 「研究キャリアの相談所」ウェブサイトをご覧ください。

<https://r.lne.st/2017/08/20/sbl-second-2/>



リバネスキャリアイベント

「Visionary Cafe」東京&大阪で開催

リバネスは、1人1人がもつ「熱」を大事にしている会社です。リバネスのことを知ってもらうには、役員陣の「熱」に触れてもらわなくては。私たちはそう考えて、リバネスの将来の仲間を集めるイベントを役員とのランチセッション「Visionary Cafe」にしました。何かに「熱」を持って取り組みたいと思っている方、個性豊かなリバネスの役員に、自分の意見や世界を変えるアイデアをぶつけてみませんか？

■ 第20回 Visionary Cafe (東京開催)

日時：10月15日(日)10:30～13:00(11:45よりランチ)

場所：リバネス知識創業研究センター(東京都新宿区下宮比町1-4 飯田橋御幸ビル4階)

参加費：1000円(ランチ代)

申込み：<https://r.lne.st/2017/08/01/visionary-cafe20/>



■ 第4回 Visionary Cafe Osaka (大阪開催)

日程・会場は調整中です。決定次第、以下のサイトにてご案内します。

申込み：<https://r.lne.st/>

実になるインターンシップ経験って何？

インターンシップを経験した研究者にとって、その学びはキャリアにどのように活かされているのでしょうか。若手研究者が集まるリバネスの長期実践型インターンシップの卒業生とその価値にせまります。

自分だけでなく相手がいる、 だからゴールの正しさを考え続ける

山田 光男 さん

現在の仕事：製薬企業研究員

インターンシップ期間：約2年間（博士前期課程1年生～後期課程1年生）

製薬企業で創薬研究に勤しむ山田光男さん。「就職の決め手になったのは、オーファン・ドラッグに向き合う会社だから」と澁みなく語り、希少疾病という難しい分野で研究を続けている。10年以上も前に経験したインターンシップは、山田さんにどのような気付きをもたらし、今どのように生きているのだろうか。

相手を知り、相手を動かすために

博士前期課程の頃、博士号取得後は企業で働こうと考えていた。「博士の就職難は当時から言われており、研究以外の経験も積んでおきたい」と、リバネスの門を叩いた。出前実験教室の企画立案、学校への営業活動、講師と「何かを相手に伝え、相手を動かす」経験を積み重ねた。考えに考え抜いたつもりでも、『何を伝えたいの？子どもに何を持って帰ってもらいたいの？』といった問いに、筋の通った返答ができず、ガラガラと内容が変わっていききました」と苦笑いする山田さん。しかし、そこで学んだことは明確だ。「独りよがりではだめ。子どもたちが何を得られるのか、学校は何を求めるのかという相手のニーズを汲み、ゴールを考え続ける習慣が身につきました」。

研ぎ澄まされる自分自身のテーマ

相手を知り、相手に自身の想いを届ける経験を通じることで、自分自身の理解が深まっていく。



▲インターンシップにて企画から実施まで担ったプロジェクトのパンフレットとともに

すると社会の課題や自分自身の問題意識を捉え直し、それを解決していこうという強い意志へとつながる。そうして育まれた山田さんの将来のテーマは、「未承認薬の開発」だ。「困っている患者さんがいて、効果が期待できる薬が存在する。しかし日本では未承認薬なので届けられないのです」。海外では承認されているが、国内では患者数が少なく十分な治験が行えないもの、薬効が高くても類似薬が存在するためにビジネスとして成立が難しいもの、この業界でキャリアを積む中で見えてくる課題もある。そんなとき考える、患者のこと、会社のこと、そして自分の想い。常に独りよがりではないゴールを設定し、同僚や上司といった仲間と共有していくのだ。出前実験教室と創薬、そこには確かに共通するものがあつた。

(文・戸金 悠)

紹介します!

研究キャリア応援講座

大学や大学院では、卒業・修了後のキャリアパスを考えるきっかけをみなさんに提供し、社会で活躍できる人材として羽ばたけるようにとさまざまな講座が開かれています。その中のいくつかで、リバネスもお話をさせていただきました。今回は、2017年6～8月に実施したものを紹介します。



◀徳島大学「キャリアプラン演習」の様子。
本誌vol.37で紹介した森本恵美先生が、「研究者という選択」というテーマで、学生たちにメッセージを届けた。

▶立命館大学「教養ゼミナール」では、リバネスの地域開発事業部部長の石澤敏洋が、研究者がベンチャー企業を立ち上げる際にポイントとなる考えと、それを伝えるための申請書の書き方についてワークを交えて紹介した。



2017年6月～8月に実施した研究キャリア応援講座

- 6月1日 立命館大学 教養ゼミナール「ヘルスケア・スポーツ領域のためのデザイン思考」
ビジネスプラン申請書の作成方法
- 6月3日 徳島大学 キャリアプラン演習
研究者という選択
- 6月10日 龍谷大学 龍（ドラゴン）起業塾
起業のすゝめ
- 6月30日 熊本大学 クリエイティブ・マインドセット・セミナー
イノベーションを生むQPMIサイクル
- 7月14日 東京工業大学 企業社会論 変化し続ける世界で生き抜くために
- 7月18日 早稲田大学 イノベーションとテクノロジー基礎 β
結果的にイノベーション：課題解決してたら、たまたま当たり前になった話
- 8月10日 琉球大学 鹿児島大学大学院連合農学研究科
「人材養成学生支援セミナー」2017
科学技術と社会をつなぐ知識プラットフォーム
～個のミッションから生まれる新たな価値～

今後の実施予定

- 10月1日 熊本大学 地方創生企業戦略論

リバネスでは、大学生・大学院生～ポスドク等の若手研究者のキャリアを支援するため、さまざまな研修やセミナーを企画・実施しています。また、若手研究者の自由な研究を後押しする独自の研究助成「リバネス研究費」や、外部資金獲得のための新しい仕組み「L-RAD」、研究成果の社会実装を応援する「TECH PLANTER」などの取り組みに関する説明会も随時開催しています。興味のある方はぜひご連絡ください。

研究キャリアの相談所

募集中の求人情報

研究に熱い企業があなたを待っています！

QRコードから各求人の詳細情報をご覧いただけます。興味のある方は各ページの「エントリーする」からご応募ください。リバネスの担当者からご連絡します。

株式会社かずさ ゲノムテクノロジーズ

「公益財団法人かずさDNA研究所」が長年にわたる研究により蓄積してきた遺伝子資源を基盤とし、その製造・販売、関連試料の分析、解析受託およびコンサルティングを行っています。

募集職種

新規事業開発・企画、
フィールドテクニカル
サポート



株式会社 DG TAKANO

水や環境に関する製品の開発・研究・設計や、共同研究・開発・新製品企画など社長直下のチームで行います。

募集職種

研究開発職



4D センサー株式会社

超高速・高精度・小型・安価な三次元形状・変形計測装置の開発および販売を行っています。

募集職種

プログラマ



ナノサミット株式会社

ナノ素材で世界の機能性材料の頂点を目指し、材料革命による新たな未来を創造する会社です。

募集職種

研究開発（化学系・電気系統）・キャパシタ
バッテリーの開発・生産



株式会社リバネス

「科学技術の発展と地球貢献を実現する」という理念の下、専門知識や技術・人などをつなぎ、組み合わせることで社会に新たな価値を創出する仕事です。

募集職種

コミュニケーター



株式会社メタジェン

腸内環境をデザインするリーディングカンパニーです。慶應義塾大学および東京工業大学の研究分野で培われた確かな解析技術、メタボロゲノミクス®により腸内環境を評価します。

募集職種

主任研究員、バイオインフォマティクス・スペシャリスト



お問い合わせはこちらまでお願いします **研究キャリアの相談所** <https://r.lne.st/career/>
E-mail : career@leaveanest.com 担当：環野（東京本社）、磯貝（大阪事業所）

有料職業紹介事業 ・ 許可番号：13-ユ-300411 ・ 範囲：国内における科学技術における専門的・技術的職業



人材応援 プロジェクト

私たち株式会社リバネスは、知識を集め、コミュニケーションを行うことで新しい知識を生み出す、日本最大の「知識プラットフォーム」を構築しました。教育応援プロジェクト、研究応援プロジェクト、創業応援プロジェクトに参加する多くの企業の皆様とともに、このプラットフォームを拡充させながら世界に貢献し続けます。

(50音順)

株式会社 IHI	帝人株式会社
アサヒ飲料株式会社	株式会社デンソー
株式会社池田理化	東京東信用金庫
ウシオ電機株式会社	東宝株式会社
江崎グリコ株式会社	東洋ゴム工業株式会社
SMBC コンサルティング株式会社	東洋紡株式会社
SMBC 日興証券株式会社	東レ株式会社
NOK 株式会社	凸版印刷株式会社
株式会社オークファン	日本たばこ産業株式会社
オムロン株式会社	日本ナショナルインスツルメンツ株式会社
オリエンタルモーター株式会社	日本マイクロソフト株式会社
オリックス株式会社	日本ユニシス株式会社
オリンパス株式会社	パーク 24 株式会社
株式会社オンチップ・バイオテクノロジーズ	株式会社バイオインパクト
株式会社カイコム・バイオサイエンス	株式会社浜野製作所
川崎重工業株式会社	東日本旅客鉄道株式会社
キャノン IT ソリューションズ株式会社	株式会社日立ハイテクノロジーズ
協和発酵キリン株式会社	古野電気株式会社
株式会社クラレ	株式会社プロトコーポレーション
株式会社グローカリンク	本田技研工業株式会社
コクヨ株式会社	松谷化学工業株式会社
コニカミノルタ株式会社	三井化学株式会社
近藤科学株式会社	三井不動産株式会社
サントリーグローバルイノベーションセンター株式会社	三菱電機株式会社
株式会社ジェイテクト	株式会社メタジェン
敷島製パン株式会社	森下仁丹株式会社
株式会社シグマックス	森永乳業株式会社
新日鉄住金エンジニアリング株式会社	山本漢方製薬株式会社
新日本有限責任監査法人	ヤンマー株式会社
セイコーホールディングス株式会社	株式会社ユーグレナ
ソルベイ・スペシャルケム・ジャパン株式会社	株式会社吉野家
大日本印刷株式会社	株式会社吉野家ホールディングス
武田薬品工業株式会社	リアルテックファンド
株式会社竹中工務店	ロート製薬株式会社
ツネishiホールディングス株式会社	Rolls-Royce Holdings plc
THK 株式会社	ワールドキャリア株式会社
株式会社 DG TAKANO	ワタミ株式会社
D.C.TRAINING JAPAN 株式会社	

学部・院生のための研究キャリア発見マガジン『incu・be』とは

『incu・be』は、目標を見つけ、それに向かって実力を養い (incubate)、未来の自分をつくり出す (be) ためのきっかけを提供します。自らの未来に向かって主体的に考え行動する若手研究者を、企業・大学とともに応援します。

研究応援教員とは

研究の世界に踏み出そうとしている学生に対し「研究キャリア」を考えるきっかけを学生に提供するため、『incu・be』の配布等にご協力くださる先生方を募集しております。『incu・be』を毎月、ご希望の部数を無料でお届けする他、リバネス研究費やキャリアイベント等のお知らせをメールにてお送りいたします。ご協力いただける場合には、下記のフォームからご登録をお願いします。

<https://r.lne.st/professor/>

研究応援教員 (敬称略)

University of California) 田原 優
【愛知学院大学】 市原 啓子
【金澤大学】 寺園 淳也
【藍野大学】 外池 光雄
【麻布大学】 滝沢 達也
【医薬基盤・健康・栄養研究所】 米田 悦啓
【岩手県立大学】 山本 健
【茨城大学】 木村 成伸、鈴木 健仁、中村 麻子
【宇都宮共栄大学】 須賀 英之
【宇都宮大学】 糸井川 高穂
【江戸川大学】 福田 一彦、浅岡 章一
【大阪市立大学】 蔡 凱、中臺 枝里子、長崎 健、保寿 隆享
【大阪工業大学】 河村 耕史
【大阪大学】 中野 貴由、大竹 文雄、森島 圭祐、村田 亜沙子、杉本 宣昭、久武 信太郎、佐藤 尚弘、森 勇介、原田 慶恵、瀬恒 謙太郎、井上 克郎、笹野 佑、岡本 行広、梶原 康宏
【大阪電気通信大学】 小枝 正直、鄭 聖憲
【大阪府立大学】 中野 長久
【学習院大学】 清末 知宏
【神奈川工科大学】 白井 曉彦
【神奈川大学】 衣笠 竜太
【関西学院大学】 巳波 弘佳
【関西大学】 河原 秀久、片倉 啓雄、工藤 宏人
【基礎生物学研究所】 倉田 智子
【九州大学】 中村 大輔、清水 邦義、近藤 哲男
【京都学園大学】 松原 守
【京都工芸繊維大学】 津吹 達也
【京都大学】 前野 悦輝、川本 純、篠原 真毅、菅 馨、小野 正博、土居 雅夫、富田 良雄、中野 伸一、河井 重幸、森 和俊、山口 栄一、奥野 恭史、浅見 耕司、今村 公紀
【京都府立大学】 高野 和文
【近畿大学】 生塩 研一
【熊本大学】 杉本 学
【群馬大学】 北村 忠弘
【慶應義塾大学】 犀川 陽子、大前 学、竹村 研治郎、藤本 啓二、中西 泰人、久保 健一郎
【県立広島大学】 阪口 利文
【高エネルギー加速器研究機構】 大谷 将士
【工学院大学】 長谷川 浩司
【高知大学】 小島 優子
【甲南大学】 久原 篤
【神戸大学】 森田 憲一
【神戸大学】 影山 裕二
【国際基督教大学】 小林 牧人、布柴 達男
【国立遺伝学研究所】 有田 正規
【国立環境研究所】 一ノ瀬 俊明、中島 英彰、大田 修平
【国立成育医療研究センター】 要 匡
【埼玉県立大学】 関分 貴徳
【埼玉大学】 長谷川 有貴
【産業技術総合研究所】 長谷川 良平、三輪 洋晴、小関 義彦、高島 一郎、宮崎 真佐也、藤原 すみれ

【静岡大学】 竹内 浩昭、成川 礼、田中 滋康
【自然科学研究機構】 小泉 周
【島根大学】 荒西 太士
【首都大学東京】 酒井 厚、小町 守、岡部 豊、住吉 孝行
【上智大学】 早下 隆士
【信州大学】 清水 雅裕、片岡 正和
【成城大学】 境 新一
【摂南大学】 白鳥 武
【総合研究大学院大学】 本郷 一美、五條 堀 淳
【玉川大学】 木村 實、佐藤 久美子
【千葉大学】 後藤 英司
【千葉工業大学】 富山 健
【中央大学】 船造 俊孝、山田 正、谷下 雅義、中村 太一郎、楠田 祐
【筑波大学】 渡辺 知恵美、永田 毅、小宮山 真、足立 和隆、小林 正美、濱 健夫、鈴木 石根、岩田 洋夫
【帝京大学】 黒沢 良夫、横村 浩一
【電気通信大学】 來住 直人、川端 勉
【東京医科歯科大学】 鐔田 武志、木村 彰方
【東京海洋大学】 竹内 俊郎、廣野 育生、戸田 勝善、岡本 信明、神田 穰大
【東京工科大学】 佐々木 和郎
【東京工業大学】 川本 思心、関崎 政和、猪原 健弘、長谷川 晶一、山本 拓矢、太田 啓之、因幡 和晃、西條 美紀、大上 雅史
【東京工芸大学】 西宮 信夫、森山 剛、大海 悠太
【東京歯科大学】 武田 友孝
【東京大学】 西成 活裕、生長 幸之助、矢作 直也、井上 将行、堅田 利明、船津 高志、村田 茂穂、吉田 丈人、坪井 久美子、金子 知適、金井 崇、山口 泰、金子 邦彦、藤垣 裕子、吉田 朋広、河澄 響矢、儀我 美一、酒井 邦嘉、植田 一博、新井 宗仁、渡邊 雄一郎、小野瀬 佳文、豊田 太郎、吉本 敬太郎、前田 京剛、豊島 陽子、有岡 学、岡本 晃充、大口 敬、日比谷 紀之、横山 央明、三浦 正幸、加藤 孝明、星野 真弘、平川 一彦、半場 藤弘、枝川 圭一、ビルテ マーカス、桑野 玲子、沖 大野、野城 智也、稲葉 寿、河東 泰之、寺仙 友秀、楠岡 成雄、齊藤 宣一、横井 秀俊、野口 祐二、櫻森 康文、近藤 豊、安藤 恵理子、大石 恵章、小柳 正基、中村 泰信、堤 敦司、黒田 真也、森川 博之、森田 一樹、小林 徹也、小柳津 広志、中須賀 真一、五十嵐 健夫、開 一夫、福田 裕穂、嶋田 透、大島 まり、中村 尚、菅 裕明、牧野 義雄、相田 卓三、畑 中 研一、油谷 浩幸、松永 行子、村上 智一、神崎 亮平、岡部 徹、杉本 宣昭、合原 一幸、小野瀬 佳文、四本 裕子、木下 裕介、梅田 靖、小澤 一雅、松田 良一、飯塚 怜、【東京電機大学】 大西 謙吾、世良 耕一、長原 礼宗
【東京農業大学】 志地 弘信、根根 義昌、中西 康博、坂田 洋一、夏秋 啓子
【東京農工大学】 養王田 正文、大野 弘幸、新垣 篤史、佐藤 令一
【東京薬科大学】 太田 敏博、徳永 英司、諸橋 賢吾、梅村 和夫、武田 正之、島田 浩章、橋本 卓弥、越

『incu・be』の配布・設置について

『incu・be』は、全国の理工系大学・大学院の学生課・就職課・キャリアセンター等に設置いただいているほか、「研究応援教員」のご協力により研究室や講義にて配布いただいております。また、Amazonや全国書店にてお買い求めいただくこともできます。学校単位での配布・設置をご希望の場合、その他お問い合わせは下記までご連絡ください。

株式会社リバネス 人材開発事業部 incu・be編集部

TEL : 06-6125-5622

E-mail : incu-be@lne.st



398名

地 耕二、朽津 和幸、金子 敏宏、山本 誠
【同志社大学】 太田 哲男、小寺 政人、石浦 章一
【東邦大学】 岸本 利彦
【東北大学】 斎藤 将樹、山崎 翔平、青木 優和、鈴木 宏宏、若林 利男、関 真之、五十嵐 太郎、高橋 富男、布施 直之
【東洋大学】 下村 講一郎、廣津 直樹、梅原 三貴久
【徳島大学】 森本 惠美
【奈良文理大学】 徳村 忠一
【鳥取環境大学】 足利 裕人
【鳥取大学】 久郷 裕之、押村 光雄
【富山県立大学】 立田 真文、古澤 之裕
【富山大学】 杉森 進也
【豊橋技術科学大学】 後藤 尚弘
【名古屋産業大学】 伊藤 雅一
【名古屋大学】 村瀬 洋
【名古屋文理大学】 長谷川 聡
【奈良県立医科大学】 大野 安男
【奈良女子大学】 遊佐 陽一
【奈良先端科学技術大学院大学】 別所 康全、駒井 章治
【新潟大学】 藤村 忍
【日本女子大学】 宮崎 あかね
【日本大学】 福田 昇、浅井 朋彦、佐甲 徳米、有坂 文雄、伊藤 賢一、畔柳 昭雄、高橋 芳浩、野呂 知加子、渡邊 泰祐、宮崎 康行、遠藤 央
【農業・食品産業技術総合研究機構】 大坪 憲弘
【光産業創成大学院大学】 瀧口 義浩
【兵庫県立大学】 藤原 義久
【広島大学】 西畑 正英、坂田 省吾、田川 訓史、江坂 春春、実岡 寛文、兼松 隆、長沼 毅
【福井大学】 沖 昌也
【法政大学】 杉戸 信彦、大島 研郎、新井 和吉、小池 崇文、鎌田 聡
【北海道科学技術総合振興センター】 本間 直幸
【北海道大学】 住友 秀彦、河西 哲子、樋口 直樹、笠原 康裕、日野 友明、山中 康裕
【三重大学】 松岡 守
【富山大学】 山崎 有美、林 雅弘、明石 良
【武庫川女子大学】 升井 洋至
【武蔵野大学】 荒木 義修
【明治大学】 矢野 健太郎
【山形大学】 戸森 央貴、綾部 誠、永井 毅
【横浜国立大学】 向井 剛輝、中村 達夫、金子 信博、小倉 里江
【理化学研究所】 工業 樹洋、大武 美保子、篠崎 一雄
【立教大学】 山田 康之、上田 恵介、関根 靖彦
【立命館大学】 山下 茂、西浦 敬信
【琉球大学】 荒川 雅志、與那 篤史、福田 雅一、千住 智信、赤嶺 光、松本 剛、大角 玉樹、岩崎 公典、瀬名波 出、新里 尚也、浦崎 直光、徳田 岳、嬉野 健次、久保田 康裕、外山 博英
【労働安全衛生総合研究所】 久保 智英
【早稲田大学】 尾形 哲也、本間 敬之、田中 宗、玉城 絵美 (2017年8月1日現在)

++ 編集後記 ++

今号の特集では、学会をテーマに取り上げました。私自身も国内で仲良くなった研究者と一緒に海外の学会に参加したことがあり、苦手な英語でもひるまずに発表を行う姿に勇気をもらえました。お会いした先生の研究の発想に刺激され、それまで読まなかった分野の論文を読んだこともあります。振り返ると、自分が発表したことよりも、誰かが話したことをたくさん覚えていて、学会での出会いは確かに自分の何かを変えてくれるきっかけになります。ぜひ研究キャリアを拓く想いも併せもち、学会を楽しんでもらえればと思います。 (戸金 悠)



2017年9月1日 発行

incu・be 編集部 編

staff

編集長 戸金 悠

art crew クリタミノリ

清原 一隆 (KIYO DESIGN)

編集 磯貝 里子

記者 井上 剛史 / 環野 真理子 / 楠 晴奈 / 大安 晃 /

田浦 優磨 / 富田 知里 / 矢野 圭祐

発行人 丸 幸弘

発行所 リバネス出版 (株式会社リバネス)

〒162-0822 東京都新宿区下宮比町1-4

飯田橋御幸ビル5階

TEL 03-5227-4198

FAX 03-5227-4199

E-mail incu-be@lne.st (incu・be 編集部)

リバネス HP <https://lne.st>

印刷 株式会社 三島印刷

© Leave a Nest Co., Ltd. 2017 無断転載禁ず。

ISBN 978-4-86662-004-6 C0440

必要なのに顧みられない医薬品・医療機器の提供を通して、社会に貢献する

インターンシップの受付を開始しました

ポストドクならびに大学院博士課程(医学/薬学/生物化学/農芸化学/バイオ等)の研究者の方を積極的に採用します。

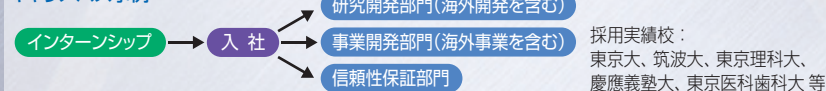
職種・内容 ご本人の専門・研究テーマ・適性・希望等を勘案し、次のいずれかに従事していただきます。

- 臨床開発プロジェクトの治験関連業務のサポート
- 開発品及び上市品の安全性情報管理業務、上市品の製造販売後調査の推進・管理業務
- マーケティング関連業務のサポート：新製品の市場情報、需要予測データ作成等
- 経営企画部門での財務戦略・中長期戦略策定、他社の経営状況調査・分析等のサポート

募集人数 2～3名

○ インターンシップを通じた正社員採用を前提としています。

キャリアパス事例



採用実績校：
東京大、筑波大、東京理科大、
慶應義塾大、東京医科歯科大等

*インターンシップ期間は、原則3ヵ月程度とします。

*応募される方は、9月末まで必着にて、人事部/池田まで、履歴書を送付してください。

*応募者多数の場合は、書類審査をさせていただきますので、ご了承ください。

*詳細は人事部/池田まで、お問い合わせください。

研究開発 オープン指定、先駆け審査指定の実績複数。アカデミアとの連携テーマ多数現在進行中

● 製品ラインアップ

販売名	効能・効果	厚労省指定
ノベルジン®	ウィルソン病、低亜鉛血症	オープン指定
ルナベル®LD/ULD	月経困難症	
ノーベルパール®	新生児けいれん、他	オープン指定
ホストイン®	てんかん重積状態、他	
インダシン®	未熟児動脈管開存症	オープン指定
コスメゲン®	ウィルムス腫瘍、他	
アラベル®	悪性神経膠腫の診断	オープン指定
ユニタルク®	悪性胸水の再貯留抑制	
レスピア®	未熟児無呼吸発作	オープン指定
ラバリムス®	リンパ管筋腫瘍	オープン指定
ザノサー®	膵・消化管神経内分泌腫瘍	オープン指定

● 開発パイプライン

品名	効能・効果	提携先	厚労省指定等
チタンブリッジ(医療機器)	内転型痙攣性発声障害	先端医療振興財団	先駆け審査指定
鼓膜再生	鼓膜穿孔	先端医療振興財団	
シロリムス(外用剤)	結節性硬化症に伴う血管線維腫	大阪大(共同研究)	オープン指定 先駆け審査指定
混合ホルモン	月経困難症	自社開発	
N-アセチルノイラミン酸	遠位型ミオパチー	国立精神・神経医療研究センター/東北大	
メラトニン	発達障害児の睡眠障害	自社開発	
酢酸亜鉛(剤形追加:顆粒)	ウィルソン病、低亜鉛血症	成育医療研究センター	
GM-CSF	肺胞蛋白症	SAVARA社	国際共同治験
マラリアワクチン	熱帯熱マラリア	大阪大/GHIT, EVI	海外開発